

《カップリング講演会》「ワイマールのバッハ」について



【講演会 講師】
礪山 雅

国立音楽大学教授、日本音楽学会会長。専攻はバッハを中心とするドイツ音楽史。主要著作に『マタイ受難曲』『バッハ／カンタータの森を歩むⅠ、Ⅱ、Ⅲ』（東京書籍）、『J.S. バッハ』（講談社現代新書）、『バロック音楽』（NHKブックス）、『モーツァルト／二つの顔』（講談社選書メチエ）、『バロック音楽名曲鑑賞事典』『モーツァルト＝翼を得た時間』（講談社学術文庫）、『救済の音楽』（音楽之友社）などがある。

のちにゲーテやシラーが文学活動を繰り広げる都市、ワイマールでバッハが宮廷勤めをしていたのは、23 歳から 32 歳にかけての9年間であった。バッハはまさに彼の青年期を、この都市で過ごしたのである。ワイマール時代のバッハの活動はオルガン音楽を中心に行われたが、その後期に生み出された約 20 曲のカンタータも、バッハの青春の記念碑として、忘れるわけにはいかない。ライプツィヒ時代のカンタータを雄大なアルプスの連山にたとえれば、花咲き清流の走る高原にたとえられるのが、ワイマール時代のカンタータである。若きバッハは、イタリア音楽のオペラ様式を取り入れ、1 曲ごとに編成や構成を変えながら、感受性にあふれるカンタータを書いた。それらを代表する 4 つの名曲が、三澤洋史さんの指揮で鳴り響くのが楽しみだ。



【指揮者】
三澤 洋史

新国立劇場合唱団指揮者。1999 年より 2003 年まではバイロイト音楽祭に祝祭合唱団の指導スタッフの一員として活躍。バッハには深く傾斜しており、「21 世紀のバッハ」を追及するために 2006 年 1 月、「東京バロック・スコラーズ」を立ち上げ、音楽監督に就任。これを核に「今」を生きる人と音楽の輪を広げている。



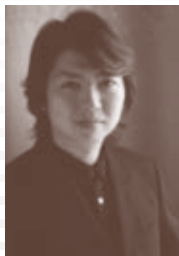
ソプラノ／
藤崎 美苗

岩手大学教育学部卒業、東京藝術大学声楽科卒業、同大学院修士課程独唱専攻修了、大学院音楽科で学ぶ。バッハを始めとした宗教曲やリートを中心に活躍している。「結婚カンタータ」をジョシュア・リフキンと共演。またバッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとして多くの公演や録音に参加し、ドイツ公演「ロ短調ミサ」及び「マニフィカト」、日本では「マタイ受難曲」、メンデルスゾーン公演等でソリストを務めている。



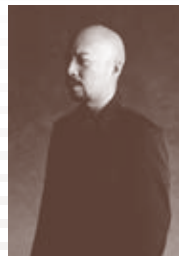
アルト／
高橋 ちはる

東京藝術大学大学院修士課程修了、同大学院博士課程修了。2004 年度友愛ドイツ歌曲コンクール入選。ソリストとして、ベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイヤ」、モーツァルト「レクイエム」、「戴冠ミサ曲」、ヴィヴァルディ「グローリア」、バッハ「ヨハネ受難曲」ほかカンタータ・ミサ曲等に出演。また、バッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとして国内演奏会をはじめ、アメリカ・ヨーロッパ各地へのツアーに出演している。



テノール／鈴木 准

東京藝術大学声楽科卒業。松田トシ貴・アカンサス音楽賞受賞。同大学院修士修了後、博士学位取得。三菱地所賞受賞。モーツァルト「コジ・ファン・トゥッテ」フェランド、「魔笛」タミーノ、一柳慧「愛の白夜」ヨニス役などでオペラに出演。宗教曲ではヘンデル「メサイヤ」、バッハ「マタイ受難曲」エヴァンゲリストなど多くに出演。バッハ・コレギウム・ジャパンの国内外の公演・録音に参加し、スペイン公演などでソリストをつとめた。二期会会員。



バス／
大森 いちえい

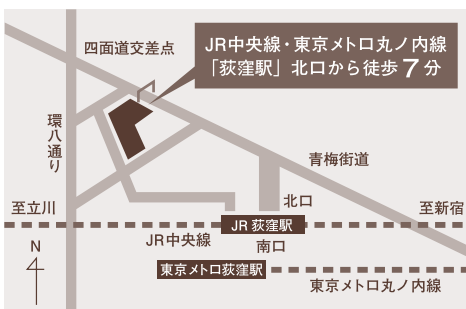
昭和音楽大学声楽科首席卒業。国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻（オペラ）修了。オペラ「ドン・ジョヴァンニ」、「フィガロの結婚」、「椿姫」、「ボッペアの戴冠」、「こうもり」等に出演。その他「メサイヤ」、「カルミナ・ブラーナ」、モーツァルト、ヴェルディ、フォーレ等の「レクイエム」、バッハの「カンタータ」、「ミサ」、各「受難曲」等の幅広いレパートリーをもつ。新国立劇場メンバーとして数々のオペラに出演中。



合唱：東京バロック・スコラーズ
管弦楽：東京バロック・スコラーズ・アンサンブル

三澤洋史のもとで「21 世紀のバッハ」を追及しようという志を共有する合唱団と管弦楽団。合唱団はオーディションによって選ばれたアマチュア、アンサンブルは一流のプロ奏者からなる。演奏のみならず、公開レッスンや講演会など、多角的な活動を行っている。また、バッハを愛好する個人や団体とのネットワークを広げ、バッハ探求のセンターとなることを目指している。

杉並公会堂
Suginami Koukaidou



〒167-0043 東京都杉並区上荻 1-23-15 TEL 03-3220-0401

国立オリンピック記念
青少年総合センター
国際交流棟 国際会議室

